

2017年07月07日

## GPIFパッシブ運用(※1)の3つのESG指数 全てに採用

住友林業株式会社(社長:市川 晃 本社:東京都千代田区)は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資(※2)の運用開始のため選定(※3)した日本株を対象とする3つの指数、「FTSE Blossom Japan Index(※4)」「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数(※5)」「MSCI日本株女性活躍指数(※6)」の構成銘柄に選ばれました。住宅メーカーで3つ全てに選ばれたのは2社のみです。

近年、ESG投資がグローバルに拡大しており、世界最大の年金基金であるGPIFが1兆円規模のESG投資をパッシブ運用で始めたことで、今後ますます注目される見込みです。当社は木を活用した事業や国内外での森林経営を通じた環境保全への貢献や、女性活躍の推進にも取り組んでおり、このような企業活動が評価されて今回の選出に繋がったと考えています。

今後も「再生可能で人と地球にやさしい自然素材である『木』を活かし、『住生活』に関するあらゆるサービスを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」という経営理念のもと、事業を通じて持続可能で豊かな社会の構築を目指し、長期的な企業価値の向上に努めていきます。

※1 運用目標とされるベンチマーク(日経平均株価やTOPIXなどの指標)に連動する運用成果を目指す運用手法。

※2 環境(E, Environment)・社会(S, Social)・ガバナンス(G, Governance)の非財務要素に配慮した投資。投資期間が長期にわたるほどリスク調整後のリターンを改善する効果が期待される。

※3 GPIFによるリリース(7月3日) [http://www.gpif.go.jp/operation/pdf/esg\\_selection.pdf](http://www.gpif.go.jp/operation/pdf/esg_selection.pdf)

※4 「FTSE Blossom Japan Index」は、グローバルインデックスプロバイダーのFTSE Russellが構築した環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックス。業種ニュートラルとなるよう設計されている。FTSE Russellはコーポレートガバナンス、健康と安全、汚職防止、気候変動といったESGテーマの企業評価を行っている。FTSE Blossom Japan Indexは、ESG評価に基づき環境、社会、ガバナンスに関する多様な基準を満たしている企業で構成。(151銘柄 2017年6月時点)。

※5 「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」は、世界で1,000社以上の機関投資家が利用するMSCIのESGリサーチが構築したESG総合型指数で、様々なESGリスクを包括的に市場ポートフォリオに反映。日本の大型から中小型株を対象とした「MSCIジャパンIMI」のうち時価総額上位500銘柄を親指数とし、業種内で相対的に優れたESG評価の銘柄で構成されている。(251銘柄 2017年6月時点)。

※6 「MSCI日本株女性活躍指数」は、多面的に算出された性別多様性スコアの高い企業を各業種から選別して構築されたテーマ型指数。女性活躍を推進している企業は労働力を確保しやすく長期的事業持続性の面で勝るという考えのもと、女性雇用の促進を通じたGDP成長による市場リターンの改善を支援する目的で開発されている。同指数は「MSCIジャパンIMI」のうち時価総額上位500銘柄を親指数とし、各業種(J-REIT銘柄を除く)から性別多様性スコアが高い銘柄が選定されている(212銘柄 2017年6月時点)。

以上

《 本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします 》

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション部 深澤・真鍋

TEL:03-3214-2270

